

八幡三神像

休ヶ岡八幡宮の本殿内には、平安時代初期（794～1185 年）に遡ると考えられる 3 つの像があります。中央には、日本の守護神である八幡神の像があり、僧侶の衣装を着ています。日本最古の記録である 8 世紀初頭の古事記によれば、彼の左には 3 世紀に統治した神功皇后が座っています。一方、彼の右側には、神功皇后の息子である応神天皇の配偶者である仲津姫命がいます。

一木造りの像は、比較的小さなサイズで驚くほど印象的な外観を持ち、各画像の形状、彫刻、色付けは、それぞれのコントラストや変化を考慮して、慎重に施された表現をもたらします。

彫刻は国宝として登録されており、3 つの神社本殿、正面の中庭の西側の脇殿、および南北の背壁を飾る神々の 6 つのカラフルな木の板絵（板絵神像）は重要文化財に指定されています。